



コミュニティ しずおか

2018
7月
No.151



一つになって笑いあう、中瀬2区村芝居

ふくみ会
(浜松市浜北区)

▼浜松市浜北区中瀬2区自治会は、145軒530人程の小さな地区である。毎年8月に地区を上げて開催される夏祭りは、子どもから高齢者まで楽しみにしているビックイベント。その中で平均年齢65歳、シニア男性22人で構成された「ふくみ会」の村芝居は、住民が一つになって笑い合う夏祭りの目玉でもある。

▼きっかけは、平成元年頃、地域の神社祭典の余興で村芝居をやったらどうかと発案があったが、照れや遠慮から中々実現されなかった。しかし、脚本演出を担当する山本さんが粘り強く口説き、5、6人集まった平成13年にやっと第1回上演にこぎつけたそうだ。

▼セリフ覚えに苦労し本番ではアドリブが連発、毎年終わるたびに「もう嫌だ」と言いながら18年経った。会員の高齢化が今後の課題というが、毎練習後の一杯と本番での住民の笑い声が継続の励みになっているという。今後も続けられる限り皆さんを楽しませてほしい。

※今年は8月18日(土)に開催されます!!

◇代表:大橋正和さん(問合せ・事務局 053-588-1855(山本))

【情報提供・佐藤勝彦】

Topics トピックス

クローズアップP2
最高の仲間になろう(磐田市)

地域訪問記P6
ホタルも人も住みよい里づくり
感動を共有したい(島田市)



リミック
のつぎ・りえ

創意工夫や新しい手法を活かしている団体を紹介します。

クローズアップ



最高の仲間になろう

～35歳までの若者の成長の場を創造～

磐田市

若者いわたネットワーク (WIN)

もしも、雪には縁のないこの磐田地区に「ゆきまつり」というものがなかったら。それを毎年楽しみにしている子どもたちがいなかったら若者たちが集うこの場は存在しなかったのではないかな。そんな県内でも希少な「若者たちの成長の場」の持つ意義を改めてみつめる「クローズアップ」である。

若者の集まりとして

昭和63年から「ファミリーフェスティバル」という名で毎年開催されていた「いわたゆきまつり」は、平成18年にこの行事を支えていた地元青年団が休会したこととで存続の危機に直面していた。「俺たちのゆきまつり

をなくすわけにはいかん」と有志数人が立ち上がり継続することとなり、その後、冬だけでなく年間を通じて地域のためになり、高校の文化祭のように楽しい活動を行いたい!とWINとして活動が広がっていった。

現在、団体会員も含め会員数60人(役員15人)男女比は半々。18歳から35歳までの磐田市在住の勤者を中心に、磐田を盛り上げよう、活動を通じて交友の輪を広げようと成長するコミュニティをめざす団体である。主な活動は、冬のいわたゆきまつりと磐田市内美化活動。その他、市内の他団体から声を掛けられ、一緒に活動をしている。

「ゆきまつり」の魅力、おそるべし。 35歳での卒業後は？

取材は平日の夜、仕事終わりの方に集まってもらうことに。最初3人で始まったが、遠くは湖西市からも駆けつけてくれ、最終的に8人にもなった。

話を伺って一番印象に残ったことは、35歳で活動を終了すること！世代交代を考えての設定よりも、「若者」という同じ土俵で語り合える年代がその辺りであると考えたようだ。年齢的に仕事や家庭に重きを置くようになる時期でもあろう。卒業がある事で、後を託す気持ちでアドバイスを惜しみなくできる。自然に世代交代が行われていることにもつながっていると感じた。

では、新しいメンバーをどうやって得るのか。「ゆきまつり」の活動に誘われてというパターンが多いという。取材に応じてくれた8人中4人は、「ゆきまつりに参加して」と答えた。前日から雪の整備、7,000人もの来場者への対応、協賛金をいただく際に地域の方々からの温かい励まし、そこでの何物にもかえがたい達成感が若者にとって魅力のようだ。大々的に募集をすることもなく、とにかく口コミとSNS等での呼びかけ。(うーん、若者らしいなあ。)

卒業後のことが気になった。OBとしての活動のお手伝いをする機会もあるが、あくまでもお手伝い。それ以外では、妊婦になり卒業した方を中心に、出産後「いわゆるママサークル」を作り、子育て活動を進めているという。

10年目に向けて

6月1日で丸9年。なんと活動を通じて良縁に恵まれ結婚し、子育てをしている会員も数十組いるとのこと。

来年で立ち上げ時からのメンバーは卒業してしまう。その一人伊藤さんが、「最近の若者は大人しい。何事にもチャレンジしてほしい!」と取材に同席した後輩たちを鼓舞する姿は少し寂しそう。

偏った活動にはしたくない。今年の定例会でも、これからの活動をそれぞれ考え、出し合ったという。さあ、若者たちの成長の場はこれからどう変化をしていくのか楽しみ!

将来、地域活動の核になるように

最後に、皆さんに今の思いを中心に聞いてみた。「県外出身者なので、知り合いを増やすためにに入った。今



楽しい交流会で親睦を深めます

は最高の居場所です」「外を歩くと知り合いに会う。まさに知り合いが増えると安心できる」「前に出るのが苦手だったが、いろいろな経験で苦にならなくなった自分がいる」「WINに入っていた姉の送り迎えから、いつのまにかメンバーになり、充実感一杯」「子どもたちが喜んでくれたのが忘れられない」「将来は、地域活動の核になって、新たなことに挑戦したい」聞いているうちに、いつのまにか時間が経過していった。私(編集委員)の娘たちの世代がそれより若い人たちから元気をもらった時間だった。これからも磐田から若者の活動を情報発信してほしい。がんばれ、WIN!



今回取材を受けてくださったWINの皆さん

◇代表:鈴木昇太さん
(問合せ・090-4235-0065)

【情報提供・安部詠司】

 レポート・高村 光 編集委員



まちからむらから



南伊豆町

南上小は地域を元気にする発信基地

みなみかみ
南上小学校
体験学習サポーター(上サポ)



運動会でお披露目「きみどりさま」

▼平成27年に子どもたちの学びや心の育成、多様なコミュニケーションの場づくり等のサポートをする有志の会として発足した。もともと小学校と地域の連携はあるが、上サポを通じて学校という場所を中心に地域コミュニティの活性化につなげたいと考えている。会員は、保護者や地域住民から成り現在20人である。

▼昨年、南上地区をPRする強力な人材「きみどりさま」が誕生した。生徒が生み出したキャラクターで、名前の由来は、南上の緑豊かな自然を表したそう。子どもと大人が試行錯誤しながら遊び心を加えて本格的な着ぐるみを製作し、地域合同運動会でお披露目された。以来、学校行事にも登場し、南上を盛り上げる人気者である。

▼子どもたちには、このゆるキャラを活用するアイデアを自ら生みだし、動き出してほしいと思っている。今後は、「きみどりさままんじゅう」の製造から販売までのビジネス体験学習を考えている。

◇代表:山根美果さん(問合せ・0558-64-8333)

御殿場市

気軽に出入りできる居場所でありたい

地域ふれあいの居場所
「ふれんどカフェ」



老若男女、どなたでもお待ちしております

▼御殿場市にある「ふれんどカフェ」は、地域の中で友だちもなく悩みを一人で抱えている方たちのために、多くの方々との会話や交流を通じ、心穏やかに過ごせる居場所づくりを目指している。

▼代表の栗原さんは、「ふれあい社会の創造」を唱える堀田力氏の話を知ったことがきっかけとなり、平成29年から毎月第2火曜日に鮎沢公民館で誰でも気軽に出入りできる居場所づくりを始めた。異世代が集まるカフェでは、幼児を抱えたママたちの子育ての悩みや、地域との交流の仕方などのアドバイスの場となり、「暇をもてあまし何もしないので寂しく、物忘れ防止に!」と訪れる高齢者に、来訪者の食事の支度で台所仕事を手伝うことや幼児の世話をすることで、生きがいを見出す場の提供となるなど相乗効果が生まれている。

※100円でお茶とお菓子付きです。おしゃべりしに行ってみませんか。

◇代表:栗原真貴子さん(問合せ・090-1824-6300)

【情報提供・沓間 捷】

静岡市

里山、谷津山の再生活動

やつやま友の会



竹にロープを掛け引き倒していく

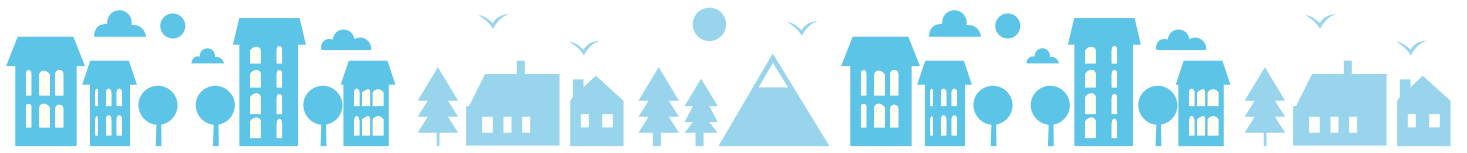
▼静岡市の市街地に位置する丘陵地の谷津山で活動する「やつやま友の会」は、谷津山を愛する60人からなる団体である。平成15年当時、土地所有者の高齢化などでお茶やミカン畑が放棄され、3割が竹林に覆われ暗く鬱蒼としていた。山の荒廃を危惧した初代代表が状況を改善しようと知り合い5人に声を掛けたのが始まりである。会では、市民や野生生物にとり良好な緑地となるよう、竹林伐採管理や樹木の保育の他、筍掘り、企業CSR活動への支援など月3、4回の活動を続けている。

▼発足から15年、管理地も約7haとなった。活動は土地所有者と協定を結んで行っている。今後管理地以外に活動地を広げるにあたり、土地所有者が代替わりにより山の状況把握が十分でないことから、境界確認に支障が出るが多くなるのではないかと懸念される。

▼近年ハイカーが増え、目指していた緑地になりつつある。今後は道が荒れているハイキングコースの補修を関係者において取り組むべきテーマとしたい。

◇代表:大石久雄さん(問合せ・054-237-5715)

【情報提供・岡井聖一】



静岡市

ご近所の繋がりを求めて始めた夏祭り

さくらやぶ
瀬名桜敷夏祭り
実行委員会



舞台ではフラの他、9つの演目が披露される

▼静岡市葵区にある瀬名桜敷地区は、巴川の支流の一つ長尾川を上った川沿いにあり、今から50年程前に宅地開発され現在360世帯が暮らす地域である。

▼桜敷夏祭りは、「町内の親睦と活性化、子どもへの思い出づくり」をモットーに、新しい住民同士の繋がりを求め、自治会の協力のもと平成10年に始まった。このお祭りの企画から準備をしているのが6人の実行委員。自治会とは別組織で他の地区との違いは、20年前に声を上げた有志で成り立っている。代表者を設けていないが6人各々が何も言われなくても当日に向け自分で動き出すフットワークの良い仲間である半面、別組織なので後継者の育成が課題でもある。

▼今年で20回目を迎える祭りは、子どもだった世代が親となって参加するようになった。「自治会の協力と住民の協力がありこれまで続けてこれ、感謝している」と実行委員は言う。

【情報提供・木野和子】

掛川市

伝統工芸の葛布を次世代へ継ぐ

達人に学び伝える会



葛布の繊維をつくる葛芋作りの様子

▼平成10年、市主催の生涯学習講座で知り合った受講生仲間で「達人発掘講座」を開催し、素晴らしい技能を持つ高齢者から技を学んでいた。月日が流れ、達人の方々と同じような年齢に差し掛かり、次は学んだことを伝えていこうと方向転換。そこで掛川の伝統工芸葛布を守り伝えることを活動の軸にし、葛芋作り・葛織りの講座や展覧会を行っている。

▼この団体の面白いところは、葛布以外に「伝えられることは伝えよう！」と染物教室、サロンでの昭和スライドショー、子ども紙すき講座など、会員の能力を生かして幅広い活動をしているところだ。伝える主役になれる会員が多いことが、発足20年と長く続いている秘訣だろう。

▼近年、葛の講座には市外からの参加も多くなり、3月に開催した展覧会には500人以上が来場した。伝統工芸という事だけでなく、「究極のエコ製品」という視点から葛布をもっと今の生活にいかせないか体験を観光に取り込めないか、皆で考えているそうだ。

◇代表：藤井康子さん(問合せ・0537-26-4980)

【情報提供・柴田清一】

地域活動情報

詳細はホームページでご覧になれます(URL <http://www.sizcom.jp>)

No.	市 町	活 動 名	主 催 者	趣旨・目的	月 日
1	小山町	歴史を感じる足柄聖天堂に行ってみませんか!	足柄山聖天堂世話人会	人々に親しまれている寺社を守っていきたい。	平成30年4月20日(大祭) 年 1回
2	沼津市	駿河の白隠さんを世界に発信!	駿河白隠塾	白隠禅師の偉業の中で、特に文化的な側面を日本国内外に広く伝えること。	年 2回(フォーラム)
3	裾野市	わらうのinすその	裾野ラフタークラブ	“裾野から笑いの輪を広げたい”	平成30年5月26日(土) 年 1回
4	静岡市駿河区	「Let's play in English ~英語であそぼう~」	サークル「英語であそぼう」	マンション内でのパパ・ママそして子どもたちのコミュニティ形成が目的。	月 1回 日曜日
5	静岡市清水区	フラでのイベント参加、地域活動、ボランティア活動	mana Hula	フラダンスを楽しみながら、各地区での交流やボランティア活動	月 2、3回(練習)
6	静岡市清水区	次世代に安心をおくろう	はなみずき有度	成人男女どなたでも活動に都合のつく人が自主的に気楽に楽しく参加する。	有度第一小学校参観会サポート 平成30年4月16、18日
7	島田市	「みんなの元気」で地域を楽しく	居場所「きらく」	健康づくり体操と楽しい催しで元気になって、地域の人みんなに元気を分ける。	月 1回 木曜日 9:30~
8	焼津市	西益津いきいきランド	西益津地区社会福祉協議会	地域のコミュニケーション向上と健康寿命の延伸を目的。	週 2回
9	川根本町	人との縁、お茶との縁をつなぐ	川根茶縁喫茶	茶畑で、縁側で、農家さんとお茶談義に花を咲かせながら、縁をつないでもらう。	不定期開催
10	御前崎市	塩買坂をきれいに	塩買坂を愛する会	道路の清掃、草刈、花の手入れ等を行い、地域の親睦とゴミのない町にしたい。	年 4回ほど
11	湖西市	発達障害がある子のきょうだいのおしゃべり会	子育て応援隊 ふるりーる	発達障害児の母親やきょうだい、子育てに困難を感じている母親たちの交流。	年 3回



ホタルも人も住みよい里づくり 感動を共有したい

ぬくり 抜里エコポリス(島田市)

県中央を流れる大井川の右岸、川根本町に近い島田市川根町抜里。

「抜里エコポリス」は、50代から80代半ばの男性45人が、平成19年より国の交付金を利用して地区内の農業用水路等の保全と農村環境の保全をしながらホタルの育成に努めている。

なぜホタルなのか？

会長の兒玉徳治さんは40年前から抜里に暮らし、2年前から会の代表を勤める。参謀役の事務局長 中村和司さんは生まれも育ちも抜里地区で幼いころの抜里地区をよく知る。

なぜ、「抜里エコポリス」を始めたのか？昔は時期になると家の周りにホタルが飛び交い楽しかった思い出があった。そういった経験を今の子どもたちにも味わってもらい、その感動を共有したいという思いがあったからだ。



カワニナとそれ以外を選別をする

まずはホタルの生態を教えていただいた。ホタルは6月～7月に繁殖期を迎え盛んに発光し、川辺のコケに卵を産み付ける。ふ化した幼虫は水の中でカワニナを食べ

成長、翌年4月ごろに川から上り土中でサナギになり5月下旬に羽化をするといった年間のサイクルだ。

まず、11月にホタルの幼虫の餌であるカワニナ(淡水巻貝)の採取を4、5回行い、キャベツや餅などの餌を与え育てる。食べカスで水路を汚さないための工夫は、周辺の農

家との良好な関係を保つ秘訣でもある。

3月には源氏ホタルの幼虫600匹を水路に放流。その後は鑑賞会の会場である川沿いに転落防止のロープを張り、足元の目安になる竹燈籠作り等の準備をしながら6月の出現を心待ちにする。

カワニナは十分に自生しているので、源氏ホタルが自然繁殖していきそうなものだが現実はなかなか難しい様子だ。大雨での増水により幼虫やサナギが流れてしまうことも多々ある。去年は、わずかに出現しただけだったそうだ。

地域との絆を築く

去年は小学校から出張講座の依頼があり、児童との交流も図っている。発足から10年。この活動により、ホタルを通じて自然と住民同士のコミュニケーションが増



小学校での出前講座

えた。また、水路のゴミが減り地区の環境も良くなるなどの効果をもたらしている。

毎年6月初旬から3週間程ホタル鑑賞会が開催され去年は、約950人が抜里を訪れた。抜里という地名を多くの方に知ってもらえる機会になっている。

また、期間中には、抜里八幡神社境内でバンド演奏や軽食などの振舞いホタル観賞パーティー(1家族500円)も開催される。

今後の目標は、兒玉さんは「自生でホタルを増やす。抜里を笑いのこぼれる地区にしたい」、中村さんも「ホタルも人も住みよい抜里を目指す」と意欲的に活動を語ってくださった。郷土の自然を伝える事は大切な役目であり、抜里地区の方のウェルカムな心が人にもホタルにも優しい地域づくりに繋がっていると感じた。

◇代表：兒玉徳治さん(問合せ・090-6078-9711)

【情報提供・山本正子】



レポート：中村弘美 編集委員



ホタルパーティー 年々参加者が増えている



150号記念対談 ～後編～

角替先生は、当協議会設立時から推進専門委員としてご支援いただき、法月さんは、創刊時から漫画を担当されてきました。

推進専門委員：角替弘志 氏
コミュニティ静岡漫画担当：法月理栄 氏
聞き手：コミ推協

コ：人のつながり方も変わってきました。

角：コミ推協がスタートした以前から、「あくまでも電子媒体のような物は道具で、顔と顔を合わせて触れ合いながらコミュニティはできていくんだよね」と言われてきたんだけど、最近はSNSによるつながりが非常に顕著になっていますね。イギリスでは、「勉強ができる環境があれば、学校には行かなくてもよい」という考え方が意外に強い。だけどそこにはいろんな落とし穴がいっぱいある。「顔と顔を合わせて体験を共通してという部分は、やっぱり人の生活にとっては大事だよね」と改めて強調していかなければならない。

法：広く早くっていう点では、ネットはいいと思います。でも嬉しい時は抱き合ったり温もりが…そういうのあるじゃないですか。ネットは横には広がるけど、そういう深みにはなかなかいかないですよ。だからそういうことを皮肉って描けたらいいなと思いますが出来なくて歯がゆいです（笑）

角：紙は電子媒体に取って代わられるというけれども、紙媒体は残してほしいですね。電子媒体は、操作しないと情報を受け取れないが、紙媒体だとポツと出てきたり、色んな所で保管されている。古いと言われるかもしれないけど記憶として歴史を残していくためには紙媒体を残すことが絶対に必要だと思います。

コ：付き合い方も変わってきています。

法：玄関の形が変わったのが大きいような気がします。昔は鍵もかけず開けっ放しが普通だったじゃないですか。鍵をかけて家を出るのに慣れていました。（笑）

角：付き合いが多すぎちゃうと煩わしくなっちゃうよね。家族でもそうだけど、人との付き合いのバランスって非常に難しい。だけど人間関係の複雑さがあったからつながりも深く楽しみも多かった。人間関係の中から楽しさも煩わしさも生まれてく

る。

法：人間関係のバランスってすごく大切ですね。

角：煩わしさもあるし楽しさもあるの。漫画の中でも意地悪な人が出てこない面白くないように。

コ：コミュニティは、人との付き合いをすること。だからその付き合いに触れ合うことが大事ですよ。今はそういうことに慣れるために、地域の活動に出ていましょうって感じですね。

角：大きな怪我をしないためには日頃から小さな怪我をしないとの方がいいよと。（笑）

法：なんとなくマンガのヒントをもらった感じがします。

コ：コミュニティ静岡で描き続けてきた感想をお願いします。

法：よくやってきたなと…。四コマにオチがないと言われたらどうしようとおもいながら描いてきました。同じ頭で考えているので、長くやっていると前にも描いた気がするなって思うことも。

角：でも同じでもいいんですよ。線の引き方とかセリフだとか微妙に違うから全く同じ物っていうのは絶対書けないはずですよ。

あの頃とこの頃は、法月さんがお感じになったことが、同じ状況だなあと読み手が感じたりできます。

法：ありがとうございます。（笑）

コ：今後のコミュニティ静岡に対する思いをお聞かせください。

角：続けて欲しいなと思います。この冊子は地域がどんな風に発展しているのかという証拠なんです。続いている事は、コミュニティの活動が継続して積極的に行われているっていう証拠ですから。この中に活動賞の記事があるでしょ？受賞団体を見てゆくと、地域の移り変わりがすごくよくわかりますよね。その時代の状況が冊子の中に一番表れている。

もう一つは活動している人にとって、「私たちの地域でもマネできるんじゃない？」というヒントを与えてくれる冊子でもあります。

「人は機械とは違う、だから価値がある」手作りは世界に一つしかなく、そこで文化の発展が出てくる「コミュニティの中で人が思うように思いっきりやればいいんだよね」と僕は思う。そうすることでいろんな活動が生まれ広がっていく。

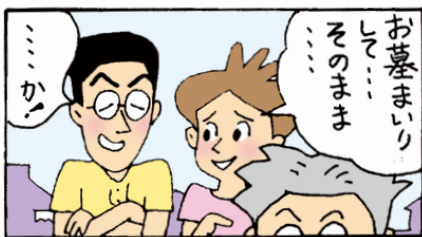
法：つまるところは人間と人間との触れ合いですね。やっぱりそういう部分を描けたらいいな。



創刊から38年、デザインも変化していった

コミセン家

のりづき・りえ



コミュニティ活動集団が決定しました。

平成 30 年度の「コミュニティ活動集団」は、次の集団を指定しました。
地域で新しいコミュニティの風を巻き起こすような活動を期待します。

門池コミュニティ推進委員会地域振興 PJ チーム（沼津市） つなぐ
裾野原緑の会（裾野市） 呼子に住んでよかったなあ
富士川観光ガイド協会（富士市）

富士川地域の歴史文化、伝統行事、自然、風土等の情報発信
旧岩邊邸（木下邸）を楽しむ会

旧家の保全と活用で蒲原の暮らしを楽しく豊かに
駿河台支えあいの会「ぼちぼち」（藤枝市）

支えあいを大切に、地域に暖かなふれあいの輪を広げよう
菊川少年少女合唱団（菊川市）

心をこめたハーモニーで聞く人の心に届く合唱を目指す
NPO 法人ミライ（菊川市）

在住外国人の子供が日本語の取得や日本での生活を支援する
桃色かけがわ6（掛川市） 誰もが参加しやすい楽しい対話の場づくり

3 世代ぶらっと（磐田市） いきいきわくわくだいすき東部おしゃべり会
豊田東そばづくりの会（磐田市）

楽しく地域づくり多世代連携で地域の活性化を図る
学習支援曳馬ボランティア委員会（浜松市）

将来を担う子ども達の学力 UP を目指して
いなさ青年団（浜松市） 出来る人が出来るコトを出来る時に出来る範囲で
子育て応援隊ふるりーる（湖西市）

疲れちゃったお母さんや子どもたちのホッとできる居場所

編集委員を 紹介します

本年度の本誌編集委員の皆様を紹介します。（敬称略）

- ・大澤由紀子（楽しいくらしクリエイター・本会推進専門委員）
- ・鈴木朝子（県広報協会常任理事兼事務局長）
- ・高村 光（コミカレ修了者・沼津市） ・中村弘美（コミカレ修了者・掛川市）
- ・加藤隆康（県地域振興課副班長）

今年の夏も
大当たりを
狙いすませ!!

サマージャンボ
1等前後賞合わせて7億円 1等5億円、前後賞各1億円

サマージャンボミニ
1等前後賞合わせて7,000万円 1等5,000万円、前後賞各1,000万円

7月9日(月) 同時発売 各1枚300円
発売期間 7月9日(月)～8月3日(金)
抽せん日 8月14日(火)
この宝くじの収益金は市町村の明るく住みよいまちづくりに使われます。

2018年市町村振興宝くじ

編集・発行

地域情報を
お寄せ下さい!

静岡県コミュニティづくり推進協議会

〒420-0856 静岡市葵区駿府町1-70 総合社会福祉会館3階 [TEL] 054-251-3585 [FAX] 054-250-8681
[URL] <http://www.sizcom.jp> [E-mail] sizucom0829@po.across.or.jp